

ご退職記念号発刊にあたって

大阪経済大学人間科学部長 平 等 文 博

2017年3月末日をもって、大阪経済大学人間科学部教授、谷行博先生がご退職されることになりました。大阪経大学会では、『大阪経大論集』第67巻第6号を「谷行博教授退職記念号」としてここに発刊し、谷先生の長きにわたる本学へのご貢献に敬意と謝意を表します。

谷先生は、1950年3月に大阪市にお生まれになりました。1973年3月に大阪外国語大学外国語学部中国語学科をご卒業後、1976年3月に同大学外国語学研究科修士課程を修了されました。

大阪経済大学には、1977年4月に、教養部（当時）助手として着任されました。以来今日まで、40年の長きにわたり、本学と共に歩んでこられました。1980年7月に教養部講師、1983年11月に教養部助教授に昇任され、1993年11月に教養部教授になりました。1997年4月から1998年3月まで、中国の華東師範大学客員研究員として海外出張もされています。2002年4月からは、教養部の改組転換に伴い、人間科学部教授として、15年にわたりご活躍されました。

また在職の間、学生委員、教養部長補佐、中小企業・経営研究所運営委員、大阪経大学会評議員、国際交流委員、17歳からのメッセージ運営委員、図書館運営委員など多くの役職につかれて、本学の運営にもご貢献くださいました。

若いころの谷先生を知っている方に聞きますと、特にテニスとスキーが得意な細身のスポーツマンでとてもエネルギッシュな方だったそうですが、私が本学に着任（1996年）したころの先生は、穏やかで笑みを絶やさぬ物静かな人という印象でした。多少無理なお願いをしても快く引き受けてくださるのを良いことに、何か困ったことがあると「谷先生にお願いしよう」と甘えさせていただきました。たとえば、卒業研究が必修の本学部では、専門演習の単位を取得せぬまま卒論を書こうとする学生に対する卒論指導をこの間お願いしてきましたが、通常以上にご苦労が多いと思われるにもかかわらず、卒論作成に向けての学生たちとのやりとりを楽しむかのように話されるのを聞き、根っからの教育者としての先生の資質を垣間見た気がいたしました。ご担当科目の「中国語」「中国の文学」でも、きっと学生たちに楽しい授業をなさってこられたのではないかと想像を巡らした次第です。

魯迅を中心とした谷先生の長年の研究業績については、ここで簡潔に触れるだけの知識・能力が私にはありませんので割愛しますが、つい先日、酒の席で先生が、「定年退職も近くなったけれど、不思議なことに最近、研究に対する意欲がこれまでも増して強くなっ

ているように思う」とおっしゃられたことが、非常に印象に残っています。

谷先生には、退職後も本学には引き続き非常勤講師としてご出講いただき、従来通りの科目をご担当くださることになっています。若い学生たちとの交流を活力源にしながら、さらにご研究に邁進されることと思います。

最後になりましたが、谷先生のこれまでの本学への多大なるご貢献に対し、改めて感謝申し上げますとともに、先生のご健康とますますのご活躍を祈念して、刊行の言葉といたします。長い間ほんとうに有り難うございました。